

# 勝高生 地域の未来熟考

地元勝山市の課題を生徒自ら調べ、探究する「勝山人」学習に勝山高生が取り組んでいる。19日には1年生118人が市役所を訪れ、各自が設定したテーマを市職員にぶつけ本格的な学習をスタートさせた。市も全庁態勢で職員が協力し、地域課題を丁寧に説明した。生徒は3年かけ学習を進め、勝山の未来をどうしていくか若者目線で考える。(宮本幸直)

市職員(手前)に質問をぶつける生徒ら=19日、勝山市教育会館



## 3年間通し「勝山人」学習

### 課題探究、市に鋭い質問

「勝山人」学習は昨年  
からスタート。市内事業  
所で事業内容や経営戦略  
などを学習してきた。今  
年からは3年間で体系的  
に学習しようと市に協力  
を求め、行政も全面協力  
する形で始まった。  
生徒は夏休み中に関心  
のあるテーマを各自で設  
定、行政にぶつける質問  
を用意した。  
19日は市民会館で山岸  
正裕市長が1年生を前に  
基調講演。人口減少に直  
面し、移住促進策などを  
進めている市の現状を分  
かりやすく説明した。  
この後、教育、環境、  
観光、農業などの6グル  
ープに分かれ、市職員約  
40人が市役所や市教育会  
館で、生徒と対話しなが  
ら質問に答えた。  
教育部門では市教委が  
力を入れてきた英語学習  
に質問が及んだ。文部科  
学省の「英語教育強化地  
域」に選ばれ、市内の小

学校でいち早く始まった  
英語教育については「小  
学校では会話中心だった  
が、中学校に入ると(机  
上の)学び中心となりギ  
ャップを感じた」と指摘。  
高校入試で導入された英  
検加点制度の見直しつ  
いても「なぜ1年で制度が  
変わるのか」など鋭い質  
問が飛んでいた。  
観光をテーマに選んだ  
宮川慎一郎さんは「行政  
が勝山の発展のために力  
を入れ、将来のことを考  
えていることがよく分か  
った。市が進めるソオパ  
ークなどについて今後調  
べていきたい」と充実し  
た表情で話していた。  
今後、週1回程度の「総

合的な学習の時間」を使  
行先の自治体の状況を  
比較するなどし、学ん  
で調査する。2年生は  
だことを3年時に発表  
修学旅行で勝山市と旅  
する。